

大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録

日 時：令和6年12月26日（木） 13時30分～16時30分
会 場：役場3階 大会議室

～次第～

1. 企画財政課長 挨拶
2. 委員紹介
3. 会長・副会長の互選
4. 議題
5. その他

■人口ビジョンの改訂について

事務局

本日配布した資料1と資料2を用いてご説明いたします。

人口ビジョンとは大刀洗町よかまち創生プロジェクトの効果的な施策立案の基礎となるものです。大刀洗町の人口の現状や、将来の姿を示しているものとなっております。今回の改定では、現行の人口ビジョンの35・36ページの目標人口を改訂したいと考えております。改定理由は、平成27年度の人口ビジョン策定時に掲げていた目標人口を現在の人口が上回り目標の方が低くなっているからです。

～資料1・2に沿って説明～

現在の人口ビジョンの36、37ページを資料2の内容に差し替えたいと思っています。人口ビジョンの改定についての説明は以上です。

委員

開発には限界がある中で、人口が拮抗するためには転入が増えるのか外国人が増えるのかもしくは転出が抑えられるのか何か理由がないと拮抗しない思う。今後、施策を進める上で、どんなイメージでこの案を出されていますか。

事務局

移住定住全般の話で行くとスカイラークの整備やオンラインでの移住相談や情報発信の充実に対する取り組みをしっかり進めていきたいです。転出抑制の面では、転入された方が定住することが転出抑制につながると思うので、まちづくりの分野や子育て世帯

への施策を効果的に提供することが転出抑制に繋がるのではないかと思っています。

委 員

転入や開発の余地があるからということですか。

事務局

今も開発は行われていて一定程度の転入の余地はあるかと思います。

委 員

外国人人口がかなり増加していると思います。現状で外国人の方がどういった働き方をしているか、どういった理由で町に転入しているかわかる範囲で教えてください。

事務局

町に住んでいる方がどんな働き方をしているかは、住んでいるところと働いているところが同じではないので一概には言えませんが、農業に従事している方はいます。また町内の事業所や社会福祉法人の事業所も雇用されているかと思いますが具体的な数字はございません。

委 員

人口を増やすことだけでなく、今いる人を減らさない努力も必要だと思っています。生産年齢の方は町外に出ていき、高齢者は町に残る構造では今までと変わらない。入ってくる方のための施策は多いが今いる人たちがそのまま残るための施策が希薄。一度出ていった人が戻るための施策も希薄。ここで生まれた人がずっと住み続ける、または戻ってきやすい環境があれば一時的に減ったとしてもカバーできるのではないかという事に対して今後どうお考えですか。

2点目が、外国人が増えている中で定住する外国人もいる。外国人の転入の理由を把握できるような内容であればもう少し吸い上げてみて住みやすい環境を整備してほしいと思う。

事務局

帰ってきたい町にする事はとても大事だと考えています。戻ってきやすい施策なのか、または施策をつうじて地域とのつながりや町の人とのつながりができる町に戻ってきてたいと思うことも大切だと思います。

令和7年度以降の新規事業ですが、農政課の方で農家の親元に戻って新規就農する方を対象に支援をします。これも戻ってきやすくなる支援事業の1つと考えます。

外国人の定住については分析できていない面はあります、在留資格ごとに2、3年で

帰国する方とある程度長く在留する方もいます。国の示す外国人の在留資格はここ数年で変化しています。今後も制度が変わる中で情報を取り入れながら外国人の定住をどう考えるのかは課題だと思います。

委 員

確認ですが、いま議論しているのは現状の人口の減少を踏まえて、今後の人口推計をどう考えるのかという点ですよね。その後、この人口の推移を踏まえてどういった施策を盛り込むかといった流れでよろしいですか。

事務局

はい。

委 員

では、この推計があつてあるかどうかといった意見が求められているということでよろしいですか。

事務局

はい。

会 長

他にないようですので協議事項 2 の第 3 期大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略について事務局より説明をお願いします。

■第 3 期大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦力について

事務局

それでは大刀洗町よかまち創生プロジェクトについて資料 3 , 4 , 5 を用いてご説明いたします。

資料 3 は全体的な方針や変更点をまとめたものです。資料 4 は 5 つの分野でワーキンググループを発足し、そこで出た意見を素案にまとめたものです。

～資料 3 ・ 4 ・ 5 に沿って説明～

委 員

14 ページのこども家庭センターができた説明がありましたがなかなか町民の方には伝わっていない。町内に対する情報発信が弱いと感じています。

高齢者はホームページをなかなか見にくい。また情報を更新し続けないといけない。発信した情報が町民に伝わらないと町の魅力を感じてもらえない。町民に大刀洗町にはこんな魅力があるんだと思ってもらうことが今後住み続けることに繋がるのではないか。9ページのまちの強みに大きな病院が近くにあるので安心とありますが、私は非常に医療機関が弱いと感じている。大きい病院にいきなり行けないので、かかりつけ医が必要。今ある病院を維持することや、もっと連携することはできないのか。

高齢者は免許の返納をして久留米の大きな病院に行けない。これから出てくる高齢者の方が安心できることを考えてほしい。

事務局

町民の方に向けたまちの魅力発信は広報担当を中心に現在進めているところではあります、それぞれの部署に関係なくしっかりとまちの取り組みは伝えたいと考えております。

また、大きな医療機関へのアクセスについてですが、町内に総合病院がない中で久留米圏域の医療機関へのアクセスができるなどを強みに書いているところですが、移動の部分も含め検討すべき内容だと感じました。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。町民に対する情報発信が弱いというご意見についてですが、さまざまなツールがあるなかで具体的にどこの部分が弱いと感じられているか参考のためにお聞かせいただけたらと思います。

委 員

防災無線が設置されていますが本当に伝わっているのかと。今避難所に行かないといけないという時に伝わっているのかなと。テレビでも町の情報は見られるようになって情報を得るための沢山のツールがあるともいます。スマホは高齢者も多く持っているのでスマホを活用し、高齢者にも届く簡単な方法で大刀洗町に合った情報の発信の仕方ができたらよいと思う。

委 員

チャネルが難しいですね。若い人はほとんどホームページを見ないし、LINEはフォローしてもらわないといけない問題がある中で、どうやっていろんな情報を広げていくか、チャネルの検討は早めにしておいた方がいいのでは。情報を入手するためのルートが乱立し担当者がやりきれなくなる可能性があるので整理は必要だと思う。余談ですけど、お年寄りに一番いいのはテレビ感覚で見られるユーチューブかもしれない。

委 員

19 ページの 5 本柱の体系図の話ですが、ふるさとの魅力をみんなで共有し発信するというところが 1 本柱になっている必要性があるのか。どの内容にもリンクしているし、これに対する KPI の目標設定が漠然な内容になっている。改定するかこのまま現状維持で行くのかお聞きしたい。

アウトプットとアウトカムが漠然としているので町が何を必要としているのか見えにくい。必ずしも KIP は 1 つである必要はなくて複合的でもいいのではないか。

いろいろな事業の中で本当に住民に還元される利益が大きいものもあるが、合計特殊出生率だけで KPI を設定されてしまうとどうしてもカバーできなくて目標達成できてしまふになってしまう。

例えば 2 本立てのような感じで、希望出生率を考えると 3 人こどもが欲しい人が本当に 3 人こどもを持っているのか、あるいは 4 人こどもを持っているといったことが事業内容として評価ができる内容になるのかなと思う。

情報発信ではフェイスブックのフォロワー数ではなく、例えば、アウトプットの方で月に 1 回更新しますという目標をたてる、アウトカムではリツイート数が何名といった感じの方が評価しやすいと思います。

医療機関へのアクセスの件に関して、ひばり号の予算が 12 月議会で予定していた人数よりも上回ったので補正したことについて、見方として地元のタクシー会社の経営状態を補佐するといった意味では月あたり 20 人以上になればいいとなるでしょう。けれど、そちらが本来の目的ではなかったと思う。公共交通の空洞化のところをサポートするとなると、利用者が増えると町が出さないといけない予算が増えて本当に持続可能な事業になるのかが疑問。町内しか行けない制約がある中で大きな病院に行くには使えない。料金にしても一人当たりいくらで払うと普通にタクシー使った方が安上がりになる。医療アクセスと公共交通機関をどうゆう風にやっていくのかは今一度検討いただきたい。

事務局

ひばり号に関するご意見ですが、ひばり号の役割としては町内にある公共交通空白地域を補完する対策と移動手段を持たない方に対する移動手段の確保のためです。

運賃としては他の公共交通機関と同じように一定の運賃を確保して運営しますので、ひばり号でなく普通のタクシーが安いというのであればそちらを使っていただくことになると思います。タクシーの使い方とひばり号の役割を切り分けて考えていただきたいです。利用者の増加についても、町の財政負担とタクシー事業者の供給の問題を考えいかなければならないと思っています。

魅力発信の目標はこれからも 1 つの基本目標として進めていきたいと考えております。町民への情報発信とは別に町外への魅力の情報発信をしていきながら人の流れを作る

ためのきっかけを作りたい。まちの魅力を知っている町外の方、海外の方、拠点からまちの魅力を発信することで、町への経済効果や観光に来てくれる人が増え、関係人口へのつながりに発展していくと思っています。

希望出生率については希望出生率が定期的にとれる数字なのかを確認して後ほど回答させていただきたいと考えています。

1つの事業に対して2つのKPIを多面的に設定する事については今後担当課と協議いたします。(→別紙1)

会長

ひばり号は非常に難しい問題で、タクシー業者さんもわざわざ台数を用意して町外からタクシーを走らせてやってくる。そこに対する燃料代はどうするのかというような話はあがってくる。ただ一方で町民の皆さんに対する負担をどこまで抑えられるかを相当考えてうまくやっていますよね。利用者が増えることはいいことなのでぜひ推進していただきたい。病院も町外に2か所行けるのでそこのアピールも必要。

魅力発信の件は、大刀洗町が大事にしている施策が基本目標だと思う。町内に住んで町内で働く方も、住んでいるけど町外で働いている人も、町外から来て町でお金を使う人もいる。そこが税収に繋がるので魅力発信の部分をもっと考えていく必要があるかもしれません。その他にいかがでしょうか。

委員

9ページ記載の町の強みをどう発信して活かしていくかは大事だと思う。6番の農作物が豊富であることは強みですが町内でまちの作物を常時買う場所がない。道の駅の検討はいいことだと思う。

7番の誇れる歴史や文化財があるに関しても今村天主堂、下高橋官衙遺跡、阿弥陀三尊像もあるが見られなかつたり見るものがなかつたりする。もっと価値を調べて魅力を磨く必要があるのでは。まちの文化財の価値をアピールできるための取組がこの中に何かあったらいいなと思った。

事務局

町の野菜を常時購入できる場所として道の駅設置検討が始まったところです。また、現状では不定期ですが地域振興課の運営する「かてて」という移動式のマルシェが農産品の販売をしています。

観光の魅力発信のため町のスポットを紹介するFLATというサイトを令和7年3月に町ホームページとあわせてリニューアル予定です。外部に対しての発信事業をしっかりと整え、応援大使や応援店舗に発信を協力していただくところまでが一連の流れとなっている。

委 員

20 ページの社会増減の数値目標について社会増減はプラス目標の方がいいのではないか。

事務局

KPI は令和 11 年における数値目標です。移住定住の KPI については人口ビジョンの目標人口を目指すために逆算して目標設定を立てているところです。社会増減が拮抗する事を仮定して目標人口を立てていますので KPI ではこの人口を達成するための数値目標となっております。

委 員

人口減少の目標ではなく社会増減の目標なのでプラスがいいのではないかと思いました。

会 長

要するに減少の内訳を自然減だけにとどめたいという事ですよね。
社会増するのが望ましいが先ほどの人口ビジョンから考えていくと人口が減少することは見えている。長く住んでいる人たちの中で自然増減しそれが人口減少の主たる要因。あとは入れ替わりがあるだろうという考え方でおそらく 0 という数字。KPI 設定を根拠と一緒に説明することをすごく言われているのでおそらく保守的な 0 という数字がでているのでは。

委 員

町の強みを知るきっかけは何だろうと考えたところ、物産展みたいなものも PR の 1 つかなと。町内に対してもですが、町外に対しても魅力の発信ができるものがあればと思いました。

事務局

町外への魅力発信ですが、KBC のふるさと Wish では枝豆収穫祭前に町のいたる所に TV 中継が入りテレビを活用した町の PR をしています。県の取組で福岡銀行のロビーでポスターと移住定住の冊子の掲示や町村フェアに参加し、町の產品を発信しています。今後も引き続き発信していきます。

委 員

子育て施策が充実しているという事ですがどこかがほかの自治体に比べて充実している

のか。そこの発信が届いていないのではないだろうか。個別の政策なのか、パッケージとしてあるのか方法の打ち出し方みたいなものが何かあったほうがいいのでは。外国人の方々とどう向き合うかの支援策も盛り込んでいくことが必要ではないか。

事務局

移住定住の相談窓口での問い合わせでも近隣市町村と迷った時に町の特徴を聞かれる。住まわれることを考える際には他市町村との比較も必要かと思う。外国人の生活支援に対する点では施策の検討まで至っていないのですが外国人を雇用している町内事業者との意見交換を行って現状の把握を行っています。

計画には記載してないのですが、町づくりの分野で公共交通の利便性を上げるために公共交通マップを作成し外国人向けに 5 か国語で翻訳し作成予定です。それを基に外国人向けの乗り方教室のような取り組みが始められればと思っています。

会長

続いて 24 ページ以降の基本目標の②から⑤まで、まとめて説明を事務局お願いします。

事務局

それでは 24 ページの基本目標②以降のご説明をいたします。

～資料 4 に沿って説明～

委員

26 ページのイキメン創生プロジェクトでは何を具体的にやろうとされているのか。たとえば講座参加者や出生届を出した際に先ほどの希望出生率のアンケート項目を聞いては。もっとアンケートが取れる場をうまく活用しては。

料理を作るという面では社協と生涯学習課でもやっている事業なので地域社会への参画を促すためにということであればターゲットを父親だけに絞らずに対象者を幅広くしてもいいのでは。

地域力を上げるというところでは地域活動の高齢化が進み先細りが懸念される。人口は増えても共助が成り立たないとなりかねないので、イキメンの内容をもう一度見ていつてもらえればと思う。

出生記念品についても「かてて」に入っていなくても事業に参加したい方もいると思うので固定化しないで例えば 1 年単位で募集をかけて入れ替わりにしてはどうか。

農業に関しては親が農業をやっていた方以外の支援も他自治体にはあるかと思う。

多様な人材の応援の面では外国人、障がい者の支援も見えてこない。シルバー人材センターの登録者が KPI にあるが実際の就労人数が必要ではないか。（→別紙 1）

事務局

イキメン養成講座については施策間の連携を持つ必要があると感じました。生涯学習課や社協もそれぞれの目的をもって事業を行っていてツールとして料理を使っている現状です。

イキメン養成講座についてはお子さんとの楽しい時間を過ごしたあと、家庭でも家事や育児に参加してもらう事が目的の講座です。内容は今後検討しながら、アンケートの項目にも違う事業の設問項目が取れるかどうかという模索もしていきたい。

ベビーギフトについて事業に参加する作家さんを広げていくかどうかは担当に確認します。（→別紙1）

親元就農の支援事業については手元の資料でご説明できませんので後日議事録と一緒に送付いたします。

シルバー人材センターについて稼働がどれくらいなのかは担当課に確認します。高齢者の働き方については町単独でなかなか実施できないものもありますので、県や国と施策を連携しながらできるところからやっていきたいと思っています。

事務局

新規就農の件ですが実家が農家ではなく新たに農業を始めたい方については10年位前から国の補助金を活用した町の別の補助金もあります。もともと農家の家業を継ぐ新規就農の方に対する支援が今回の新規事業となります。

会長

新規就農者という表現が分かりにくいので変えた方がいいかもしない。ご検討ください。（→別紙1）

KPIの設定に関してはなかなか難しいところですが、我々としては今後5年間のKPIを作るプロセスをしっかり見ていくことも必要になると思います。

皆様の活発なご意見で非常に良い審議会になりました。予定より時間を少しオーバーしてしまいましたが他になければ事務局に進行をお返しします。3回目もありますのでよろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございました。その他の事項に移ります。第3回目の審議会は3月に開催予定しておりますので日程調整をさせていただきますので引き続きよろしくお願ひいたします。

それでは以上をもちまして第2回大刀洗町まち・ひと・しごと総合戦略審議会を閉会します。